



2022年9月13日

各位

会社名 株式会社ジェイテックコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 津村 尚史
(コード番号：3446 東証プライム)
問合せ先 取締役管理部長 平井 靖人
(TEL. 072-655-2785)

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2021年12月13日において、プライム市場の上場維持基準への適合に向けた計画書を提出し、その内容について開示しております。2022年6月末時点における計画の進捗状況について、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準への適合状況の推移及び計画期間

当社の2022年6月末時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況はその推移を含め、以下のとおりとなっており、「流通株式時価総額」については基準を充たしておりません。当社は、「流通株式時価総額」に関して2024年6月末までに上場維持基準を充たすために、引き続き各種取り組みを進めてまいります。

		流通株式時価総額
当社の適合状況 及びその推移	2021年6月末 時点	80.4億円
	2022年6月末 時点	51.1億円
上場維持基準		100億円
当初の計画に記載した計画期間		2024年6月末

※当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取り組みの実施状況及び評価（2021年12月～2022年6月）

(1) 流通時価総額について

当社は、「流通株式時価総額」にかかる上場維持基準を満たし、企業価値（株主価値）の向上を目指すために、中期経営計画に基づく企業価値の向上施策に加え、M&Aを含む新規事業分野への積極投資によって事業規模を拡大し、IR活動の推進やコーポレートガバナンスの一層の充実等に取り組むことにより、時価総額の上昇を目指した取り組みを進めてまいります。

①放射光施設及びX線自由電子レーザー施設の需要拡大に対応

現在のコロナ禍が継続する中においても、国内外の放射光施設及びX線自由電子レーザー施設での研究が推進されており、放射光施設の第4世代へのバージョンアップや新しい施設の建設が計画通り進んでおります。

需要の拡大に伴い年々受注が増加しており、その需要に応えるため、技術開発を行い生産管理手法の増強を図ってまいりました。

②他の産業分野への適用（特に半導体関連）

当社は、現在の事業領域以外の他の産業分野への独自のナノ加工技術の適用や製品開発を推進しております。特に成長産業である半導体関連において、ナノ加工技術の供与や製品開発を積極的に進めているところであり、さらに国内外の主要な研究機関との共同研究を推進してまいります。

パワー半導体や電子デバイス関連の産業への参入は、2022年5月30日公表の長期成長戦略「Innovation2030」及び2022年8月12日公表の「中期経営計画」における柱の一つとしており、関連する当社独自の加工技術（CARE、プラズマCVM）への問い合わせを多く受けてきました。これらの技術を実装した装置開発を迅速に進め、収益の向上とともに企業価値の向上を図ってまいります。

③ライフサイエンス事業の推進

現在のコロナ感染に対する治療薬の探索や、テレワークによる現場での就業時間の短縮化の影響により、自動細胞培養装置のニーズが高くなっていることから、当社の自動細胞培養装置の受注が増えております。

当該期間においては、大型自動培養装置KB-4000を製薬企業向けに販売し、MakCellの販売が伸びる等、ニーズの高さを感じ取ることができました。

また、当社独自の浮遊培養技術であるCELL FLOAT®を用いた再生医療への適用や、iPS細胞を用いた創薬への展開を図り、ライフサイエンス事業を推進することによって、持続的成長と企業価値の向上に取り組んでまいります。

④M&Aを含む新規事業の推進

2021年5月に電子科学株式会社のM&Aを行いました。M&Aは当社の成長力に大きく寄与すると考えております。現時点において新たな展開はありませんが、引き続き重要な事業戦略と捉えて積極的に買収対象となる企業の探索に取り組んでおり、M&Aの達成により企業価値の向上に繋げてまいります。

⑤IR活動の推進及びコーポレートガバナンスの一層の充実

当該期間において、決算短信や株主総会招集通知の英文開示を行い、議決権行使プラットフォームの利用を開始いたしました。また投資家の皆様との対話の一環として長期成長戦略「Innovation2030」の策定を行いました。

今後とも投資家の皆様との対話を増やし、丁寧な情報発信を推進してまいります。

⑥SDGsやESGへの取り組み

現在SDGsやESGへの取り組みに注目が集まっておりますが、当社のオプティカル事

業の主力製品である「X線ナノ集光ミラー」が用いられる放射光施設やX線自由電子レーザー施設ではこれらの取り組みに最先端の技術で大きく貢献しており、それら施設におけるキーテクノロジーの一つが「高精度X線ミラー」であります。

また、当社では、大阪大学の独自の加工技術である CARE 加工の技術開発を進めておりますが、本加工も触媒作用を利用した純水のみでナノ加工を実現しており、環境に非常にやさしい技術であります。

今後は従来の切削や研磨加工から置き換わることを目標に、様々な産業分野での製品に適用するための実用化に努めております。これらの取り組みを進めていくとともに、その他の取り組みについても継続して検討してまいります。

⑦数値目標（中期経営計画：連結）

下記の中期経営計画の達成及びこれらの取り組みを行うことによって企業価値の向上を図り、投資家の皆様に当社の成長力への期待をして頂くことにより、時価総額つまりは株価の上昇に繋げてまいります。

（単位：百万円）

	2023年6月期	2024年6月期	2025年6月期
売上高	2,133	2,800	3,550
営業利益	300	537	916
経常利益	355	589	930
（経常利益率）	16.7%	21.1%	26.2%
当期純利益	228	387	621

以 上